

# 大規模木造公共施設の建築にかかる 低コストマニュアル・事例集

## 1. はじめに

岐阜県は、「木の国・山の国」と言われ、森林が県土の約8割を占める全国有数の森林県であり、私たちは豊かな森林の恵みを受け、森の文化・木の文化を育み、発展してきました。しかしながら、林業や木材産業の不振により、手入れが不足し荒廃する森林が増加し、森林の多面的機能の低下による県民生活への影響が懸念されています。

このため、岐阜県では、平成18年に「岐阜県森林づくり基本条例」、そして、「岐阜県森林づくり基本計画（平成19年度～平成23年度）」を策定し、「植えて育てる」そして「伐って利用する」という生きた森林づくりを展開してきました。県産材の利用拡大対策では、県内の公共施設への県産材利用を強く推し進めるとともに、木材の生産、加工及び流通の合理化を通じた県産材の安定的な供給体制の整備に力を入れてきました。岐阜県産材の信頼性を高めるため、産地と合法性を証明する「岐阜証明材推進制度」を皮切りに、岐阜県産スギの横架材スパン表作成、品質・性能を証明する「ぎふ性能表示材推進制度」等に取り組んできました。

このように岐阜県では、県産材利用に力を入れてきたなかで、平成21年12月、政府より「森林・林業再生プラン」が公表されました。このプランは、10年後（2020年）の木材自給率を50%以上にすることを目指すものであり、実現に向けて、公共建築物などへの木材利用の推進などが示されています。

さらに、プランを法制面から推進するため平成22年には、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が公布、施行され、低層の公共建築物については木造化していく方針が示されました。

岐阜県では、平成18年に「公共施設等における県産材利用推進方針」を定め、公共建築物への県産材利用の拡大に努めてきましたが、この法律の施行を受け、県産材利用促進のための環境整備の一環として、このたび、本書「大規模木造公共施設の建築にかかる低コストマニュアル・事例集」を作成しました。

一般的に大規模な木造建築物では、特殊な部材を使用することなどから、建築コストが増加する傾向にありますが、今後木造化をより一層促進するためには、木造化によるコスト増を低減する必要があります。

本書の利用により、大規模な木造建築物の品質・性能の向上や低コスト化を促進し、岐阜県産材を活用した公共建築物の建設の促進につながれば幸いです。